

第2回総合教育会議 要旨

○日 時:令和8年3月12日(木) 16:30~18:20

○会 場:山ノ内町文化センター 3階 ホール

○出席者:町長、教育委員3名、教育長、山ノ内中学校長、東小学校長、西小学校長、南小学校長、副町長、総務課長、総務係長、教育次長、生涯学習課長、保育・幼児教育係長、学校教育係長、文化創造推進係長、スポーツ推進係長、中央公民館長、中央公民館長補佐、給食センター所長、教育指導主事、学校統合準備係2名

(欠席者):教育委員1名、学校統合準備係長

傍聴者:4名 / 報道関係者:2名

1. 開会

望月教育次長より開会の宣言および会議公開の宣言を行う。

2. あいさつ

【町長あいさつ】

気がつけばもう3月に入り、学校も卒業式の時期で忙しい時期ではあるが、令和12年度の新しい学校に向けて様々な委員会で話も進んできていることだと思うので、本日は様々な意見を交わしながら、町としての方向性というものをしっかり決めていきたいと思っている。

【教育長あいさつ】

3月の大変慌ただしいこの時期に、第2回総合教育会議の開催となったが、今年度一年間の学校統合に関する内容と教育行政全般について、町長と教育委員の皆さんから忌憚ない意見を交わす場となるよう、日頃の考えや感じていることを話してほしいと思う。

3. 会議事項

町長の意向により、竹内教育長が座長を務める。

(1) 山ノ内町立学校の統合について(事務局説明)

- 学校づくり準備委員会では、10回の会議を重ね従来の形式に縛られず教育観や学校統合について語り合ってきた。その結果が今回の整備基本方針である。
- 今年度の活動は「対話と合意の積み重ね」であり、保護者懇談会(9回)、地区懇談会(4回)、教育懇談会(9箇所)を実施し、SNS等も活用して情報の見える化に努めた。
- 「第1章」の統合の目的について、児童数減少による効率化という消極的な理由ではなく、変化の激しい社会を生きるこどもたちのために、より魅力的な教育環境を作り出すことである。

- 今ある学校の足し算ではなく、町のみんなで未来に向けて挑戦するものである。
- 「第2章」は目指す学びについて記載している。新しい学校で町が大切にしたい、「ESD」「グローバル教育」「スポーツ・芸術」「人権教育」の4つを柱として充実させる。
- 1つ目は、縦のつながりを育む「義務教育学校」の仕組みである。異年齢の日常的な交流により、教科書では学べない人間としての深みを育む。
- 2つ目は、横の広がりとして「コミュニティ・スクール」の仕組みを充実させることである。こどもと大人が共に学び育つ「こどもがまんなか」の拠点をつくっていく。地域住民が教育に参画し、町全体を学びのフィールドとして、社会とつながる横の展開を進めていく。
- 「第3章」では施設設計等にふれている。キーワードは「余白」と「作り込みすぎない(可変性)」である。時代や学びの変化に合わせ、こどもや先生、地域住民がその時々で場をデザインできる空間を目指す。
- 具体的な施設案として、図書とICTが融合した空間、地域連携室、カフェのようなオープンなランチルームなどを配置し、予期せぬ出会いや創造性が生まれる仕掛けづくりを考えている。
- 令和12年度の開校に向け、ハード(建設)とソフト(授業や行事の計画)を並行して準備する。
- 来年度も準備委員会を継続し、「地域学校協働」「通学安全」「施設」「教育課程」の4つの専門部会を設置して、給食センターとの接続の問題やスクールバス運行等の課題を議論していく。
- 最後に関連事項として、閉校校舎の利活用に関する記事を記載している。準備委員会や地域住民から出された声をまとめた内容を記載している。
- 地域に愛された3つの小学校校舎を、地域の拠点として再生させるための指針として活用していければと考えている。
- 来年度の活動計画について、基本設計を進める一方、こどもたちの参画を重視し、小中学生による「まちづくりこども委員会」の開催や、町出身の高校生・大学生を「ユースサポーター」として学校づくりへの参画を進めていく。当事者である若い世代の声を大事にしながら、学校を作り上げていくことを目指したい。
- 住民との情報共有(SNS、広報)を継続し、2回の「学校づくりシンポジウム」も計画している。
- 令和12年、新しい校舎が町の希望の象徴となるよう、一歩ずつ歩んでいきたい。

【教育委員と町長との懇談内容で出た意見】

【教育長】

- 整備基本方針の概要説明を受け、教育委員から1年間の振り返りと来年度へ向けての考えを発言してほしい。

【教育委員】

- 1年間、準備委員会での議論が進み、漠然としていたものが形になってきた。
- 視察や対話を通じて、自分たちだけで決めるのではなく、保護者やこどもの意見を聞きながら作り込むことの重要性を感じた1年であった。

【教育委員】

- 山ノ内町はスキーができる立地条件が恵まれているなかで、スキー教室が年1回しかなくスキー教育が衰退していきっていると感じ残念である。

- 野沢温泉村では学校教育を通じて地域への誇りを育む取り組みが行われており、山ノ内町でも必要である。
- こどもの体力低下や部活動の地域展開による「部活離れ」を危惧しており、学校行事として体を動かす機会を意図的に取り組んでほしい。
- 整備方針にある 4 つの柱のうち「スポーツ・芸術」の具体性が欠けているため、より踏み込んだ内容にしてほしい。

【教育委員】

- 教育懇談会等で保護者や地域住民と直接意見交換できたことが有意義であった。
- シンポジウムの中で、中学生の発言で歳の近い人に相談したいという思いが反映され、来年度から高校生・大学生の「ユースサポーター」が学校づくりの話し合いに参画することについて、とても良いことと感じた。

【町長】

- 多様な立場の意見や議論が反映され、整備基本方針がまとまってきたと感じている。
- 給食センターやスクールバス等の課題は、予算や判断が必要な部分として今後ブラッシュアップが必要である。
- 基本設計に入るタイミングまでにタイムラインを意識し、要素の「選択と集中」を行う必要がある。
- 地域に開かれた学校を目指す一方で、こどもの安全確保は大前提である。アメリカでは一方向のみ開く扉などのように、設計段階でロック機能等のセキュリティと地域交流のバランスを早期に決めていく必要がある。

【教育長】

- 整備基本方針は基本設計の具体的イメージ化のために必要なものである。
- 来年度は学校づくり準備委員会の下に専門部会を設置し、セキュリティや地域連携のバランスについて深い議論を重ね、プランをブラッシュアップしていく。
- 整備基本方針にはいろいろなアイデアが盛り込まれているが、魅力的なまちづくりを進める上で、学校も重要な部分になるなかで、子育て世代の方が魅力を感じ、移住してきたいと思えるような学校を目指していきたい、町長として特に力を入れていきたいものがあるか。

【町長】

- 東京都などの都市部との教育格差が生まれないような方法を考えてほしい。子どもたちが望む教育や塾、スポーツなどの機会損失(チャンスの損失)が生まれないようにしたい。
- 放課後の過ごし方として、都市部のように「学童と習い事」がセットになった付加価値のあるサービスを検討してほしい。
- 他自治体の事例のように、IT 企業と連携したプログラミング教室なども、知恵と工夫で環境を作れていければと考えている。
- グローバル教育については観光地である山ノ内町だからこそ、言語能力を含むグローバルな視点と他者理解の能力を重視したい。

【教育長】

- 町長の話を受けて教育委員はどのように感じたか発言してほしい。

【教育委員】

- こどもたちが「やりたい」と思ったタイミングで学べる環境づくりをしていくことに賛同する。
- 町の施策で ALT が増えたことで、こどもたちが家庭でも自然に英語を使うようになるなど、確かな変化を感じている。
- 将来的に「場所がないからできない」という事態を避けるため、新しい学校の施設設計には余白と自由度を持たせるべきである。

【教育委員】

- 教育に限らずタイミングというのは大事であると感じている。
- オブザーバーで来ている校長先生方に学校の立場でこどもたちの様子を見ているなかで、今部活動の地域展開の話が進んでいることについてどう考えているか聞きたい。

【教育長】

- 各学校の校長に現場の視点からの意見をお願いしたい。

【山ノ内中学校長】

- 「学童と習い事のセット」という町長の提案は、部活動の地域展開における大きなヒントになる。
- 学校現場としては、「放課後児童対策」の検討について、学校統合に係る中身の議論と同じくらい重要視している。
- これから検討が必要になるが、文化センターをハブにし、各旧小学校への移動手段を確保するシステムを構築して、こどもたちのやりたいことができる活動環境ができればよいのではと思っている。

【南小学校長】

- 「自分たちの学校を自分たちで作る」という意識をこどもたちに持たせるため、対話集会を実施して多くの意見を集めることができた。
- 町の「こども基本条例」に基づき、こどもの意見が大事にされるプロセスを継続していきたい。

【東小学校長】

- 令和 8・9 年度の設計段階が勝負であり、そこで決まったものは後戻りできないという認識でいる。
- 未来の学校の形はイメージしづらいため、今の学校現場の中で、目に見える形・経験できる形で未来の形をこどもや教職員、保護者、地域の方たちとも共有していきたい。

【西小学校長】

- 部活動のクラブ化に伴い、夜遅くまでの活動がこどもたちの生活リズム（食事・睡眠）に与える影響を心配している。その課題をクリアしながらスポーツを楽しめる適切な環境づくりが必要ではないかと思っている。
- 地域に支えられて取り組んでいる教育活動の魅力を発信し、地域と喜びを共感できる場（成果発表等）を増やしていきたい。

【教育長】

- それぞれの地域において学校というのはいろいろな意味で核となっている。時代によって学校の役割は変わっていくが、地域に支えてもらいながらいろいろ発信していくことを大事にしていきたい。

- 12年度に開校する未来の学校の話をしている中で、今の学校をさらに豊かに楽しく子どもたちと先生方が一緒に充実・挑戦していくことで、新しい学校につながっていくと感じた。

【教育委員】

- 山ノ内町も海外の観光客が増えてきている中で、けがや病気で救急搬送時に英語が必要とされる実態をみて、グローバル教育の重要性に改めて大事であると感じた。

【教育長】

- 放課後児童対策として、旧小学校の空き校舎を利活用するという観点もあるが、町長の考えなどがあれば意見を聞きたい。

【町長】

- 空き校舎となる3小学校の活用は予算の都合上、すべて均等に機能を持たせるのは困難と感じており、機能を絞って予算を投入していく必要がある。一つはある校舎に塾的機能（英語、算数、ICT）やスポーツ教室を集約し、放課後そこで完結するモデルが理想である。
- 東小は温泉街や観光地に近いため、観光関連や経済発展に寄与する活用などが見込まれるとともに、防災広場との連携も重要になってくると思っている。
- 南小は佐野遺跡が近いため、文化遺産を次世代へ継承する機能を持たせ文教施設にできるのではとも考えている。

【教育長】

- 放課後の過ごし方や空き施設となる小学校の今後の活用の観点で、教育委員の意見を述べてほしい。

【教育委員】

- 塾機能として、退職された先生方の協力によるオンライン授業や学習サポートなどができたらよいと思う。
- 跡地利用は小学校の建設と同時進行で精査し、地域の声も聞きながら進めるべきである。

【教育委員】

- スキー教育の「格差」について、用具の高額さや親の負担が課題とかんじている。他市町村ではどうしているのかわからないがその課題がクリアできたらと思う。
- 地域ボランティアへの過度な依存は負担も大きいため見直したり、実費や手間賃などの予算面も考慮したほうが良いのではないかと感じている。

【教育委員】

- 東小の隣に防災広場が整備されることで避難所としての利用できるし、放課後の活動の場もできると思う。
- 昨年の上田市立北小学校の視察で地域、住民が自身の得意分野で講座を開く仕組みがあり、負担感のない形での地域参画が行われており、山ノ内でも同様なことができたらよいのではと考えている。

【教育長】

- 令和8、9年が大事な時期という話があったが、町長は新しい学校づくりに向けての意見や考えがあれば教えてほしい。

【町長】

- 新しい学校は次世代を育てるための重要は施設であると思っている。スケジュールに沿って細かいところも取捨選択しながら進めてほしい。
- 3校の跡地利用については、町としてもある程度方向性を絞り、議論を進めやすくしたい。

【教育長】

- 教育委員から全体をとおして新しい学校づくりについて発言してほしい。

【教育委員】

- 私たちもスケジュールに沿ってこれから深い話をしながら進めていきたい。
- 跡地利用については、町にお願いしていく部分になるので、要望を取りまとめていきたい。その中で放課後児童対策の利用として協力してほしいと思っている。

【教育委員】

- 学校統合については、教育委員としても意見を出していき、いい学校ができるよう進めていきたい。

【教育長】

- 今回まとめた整備基本方針について、町長と教育委員双方で合意して進めることでよいか。

【町長】

- ぜひ進めてほしい。こどもたちも地域もワクワクする学校をつくってほしいと思う。

(2) 教育行政についての懇談**【教育長】**

- 教育委員会の組織が「こども未来課」と「生涯学習課」の2課体制に再編され、保育・子育て分野の業務も教育委員会へ統合され、業務も大きく変わってきた。
- 文化、芸術、スポーツなどの生涯学習を含めて教育行政全般について、町長、教育委員ともに感想や課題などの意見をほしい。

【町長】

- 山ノ内中学校で行われたESDの発表会について、こどもたちが積極的に発表する姿を見て、今行われている教育は面白い方向に向かっており、とても楽しみだなと感じた。
- リンゴやお米の栽培・販売など、地域と関わる実体験を伴う現在の教育活動を、引き続き推進してほしい。
- 留学補助制度について、1年間の長期留学資金を支援しているが、議会からは「より使いやすい制度」を求める声がある。
- 長期留学を決断できる生徒は限られるため、中学生が夏休みの1週間程度で海外ホームステイなどを経験できるプラットフォームの構築を模索しているところではあるが課題も多い。
- 山ノ内町で育つこどもたちが海外を経験することは大きなプラスになるとしている。

【教育委員】

- 山ノ内町の英語教育やESDは非常に魅力的である。
- しかし、町内の保護者にはそれが日常化しており、周知や発信が不足していると感じる。
- 須賀川地区の人口減少が進む中、すぐかわ保育園のあり方が課題となってくると感じている。

- 「各校に ALT がいる」「自分たちでお米を作って売る」といった魅力をうまく発信すれば、教育移住の促進にもつながるのではと思っている。
- 義務教育学校を見据え、小学校へ上がる前段階として保育園同士の横の連携や交流をもっと深めるようなことができるよと思っています。

【町長】

- 町内に 5 つの保育園がある現状、予算面や規模の縮小を考慮すると、将来的な統合も検討せざるを得ないと考えている。
- 親の就労支援としての機能だけでなく、保育園同士の連携や活動なども議論していく必要がある。

【教育委員】

- 志賀高原保育園について、園児数が極少数になっても、地元での保育を望む保護者のために存続してほしいと思う。
- ESD 発表会での 6 年生の立派な姿や、校外学習で子どもたちが人の話を聞き、真面目に学んでいる姿がとてもよかったと感じ、先生方はご苦労もある中でしっかり指導していただけることに感謝したい。
- 商店の廃業や高齢化により、登下校時に駆け込める「子どもを守る安心の家」が減少しているため、協力家庭を増やしてほしい。

【教育長】

- 「子どもを守る安心の家」の情報がアップデートされておらず、機能していないと思われるため、再確認が必要である。

【町長】

- 自治区の繋がり希薄化や生活スタイルの変化により、区や組の運営が難しくなっている。
- 今の時代にそぐう形での安全確保の方法(場所づくり)を新しく検討すべきである。

【教育長】

- 地域の安全・安心、防犯という観点で防犯カメラの設置などの要望も挙げられている中で、町長の考えは何かあるか。

【町長】(防犯対策)

- 防犯カメラ設置要望に対し、区などの組織に補助を用意しているが、プライバシーやデータ管理の観点から慎重な扱いが必要である。
- 防犯カメラは抑止力として重要だが、それだけに頼らず、通学路の再検証や道路の拡幅など、トータルで安全環境づくりを進めていきたい。

【教育長】

- 最後に文化・芸術について町長に町としてどのような考えを持っているか聞きたい。

【町長】

- 美術館の活用や、南小学校の閉校を機とした佐野遺跡の保存・活用に力を入れて考えていきたい。
- 文化施設についても、修繕費の増大に備え、一部観光利用を取り入れるなど、経済的に持続可能なプラットフォームを構築していく必要があると思っている。

(3) その他:山ノ内町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について

【教育長】

- 国全体の動きに合わせ、町としても教職員の業務量管理や健康確保のための計画を策定したので報告する。

【学校教育係長】

- 昨年9月の文部科学省通知を受け、「教職員の働き方改革に関する計画」を策定した。
- 令和7年度の実績を踏まえ、先生方の時間外在校等時間の現状を把握している。
- 数値目標を定めている。月の時間外在校等時間45時間以下の割合を100%にする(年度当初等の繁忙期である4~6月は70%を目指す)。
- 年間の月平均時間外在校等時間を30時間以下にする。年次有給休暇の平均取得日数を15日以上にする(令和7年度は13.5日)。
- ストレスチェックにおける高ストレス者の割合0%を目指す。
- 計画期間は令和8年度から令和11年度までの4年間(義務教育学校開校前まで)。
- 実施内容については、業務の3分類(学校以外が担うべき業務、教師以外が参画すべき業務、他の教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務)に基づいて業務の見直しと対応策を記載している。
- また、教職員の健康及び福利厚生確保に関することを記載している。
- フォローアップとして在校等時間の状況を毎年度町のホームページで公表し、教育委員会定例会及び総合教育会議等で報告する。
- 状況に応じて、4年間の期間中であっても毎年度内容の修正を行う。

【教育長】

- 計画策定にあたっては、事前に学校現場の意見も聴取している。
- 先生方が余裕を持って楽しく、やりがいを感じられる環境づくりを進めるための第一歩である。

【町長】

- 働き方改革をぜひ進めてほしい。役場内でも業務の10~20%削減を目標に見直しを行っている。
- 少子高齢化の中で従来通りの仕事量を維持することは困難であり、工程や作業の見直しが必要である。
- 深刻な人材不足の中、先生方が心身ともに健康に働けるライフスタイルを構築できるよう、持ち帰り業務をなくす環境づくりなど、町としてもしっかりサポートしていきたいと思う。

【教育委員】

- 定例会でも内容を確認済みであり、国の指針に沿った計画として進めていくべきである。

【教育委員】

- 地域懇談会において、教職員から「負担を減らしてほしい」という切実な意見があった。
- コミュニティ・スクールの導入等にあっても、外部(地域ボランティア等)の力を借りるなどして、先生方の過度な負担にならないよう努力していく必要があると思う。

【教育長】

- 毎年度見直しを行いながら、先生方と連携し、町や地域の力も借りて学校に過重な負担がかからない体制を基本に考えていきたい。
- 最後にこの会議のまとめとして町長の思いを聞きたい。

【町長】

- 現在取り組んでいる ESD や ALT の活用を継続し、学校ごとの創意工夫を期待している。
- 学校統合については、時間軸を守り、議論を尽くした上で最後は「選択と集中」の覚悟を持って判断・ハンドリングする必要がある。
- 令和 12 年の新校開校がゴールではなく、そこからトライアンドエラーを繰り返して「進化し続ける学校」になるための支援プラットフォームを町としてつくっていきたい。

【教育長】

- 町長が述べた「絶えず進化し続ける」という考えを大事にしていきたい。
- 新しい学校ができるのを待つのではなく、今この瞬間から先生方とともに進化していきたいと思う。

4.閉会（18:20）

教育次長より閉会の宣言を行う。